

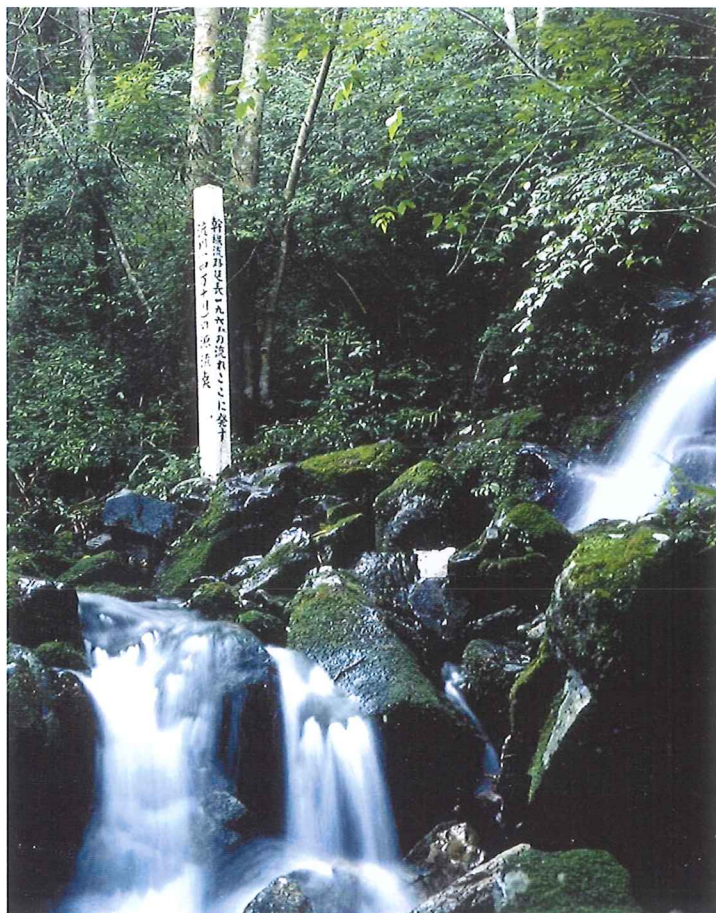
津野町

清流と風と歴史に会えるまち

津野町は、高知県の中西部に位置する面積198.22平方キロメートルの山間の町。四国山地に抱えられた地域は急峻で、町の約90%を山林が占め、東部を清流「新庄川」が東に、中央部を清流「四万十川」の本流が南に、西部を北川川が南西方向に流れ、どの地域も川沿いに集落が点在している。比較的温暖な気候だが、西部山間部地域では、冬季には60センチほどの積雪がある。

清流のある町

いわずと知れた全長約197キロメートルにも及ぶ日本最後の清流と呼ばれる「四万十川」。何かの偶然か河口の旧・中村市(現・四万十市)同様、この地の字名も船戸中村と言い、中村に始まり中村から太平洋へと源流の一滴がここから注がれる。



四万十川 源流点

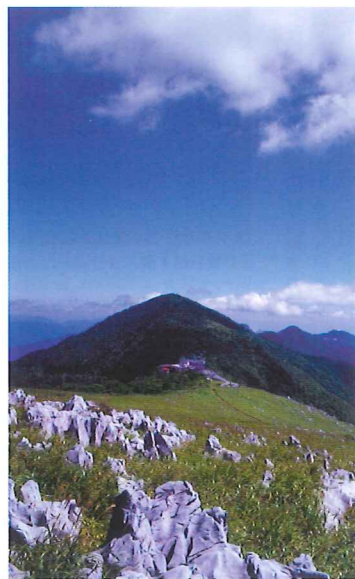
【問い合わせ先】

津野町 産業建設課 TEL0889-55-2021

緑の山々の上ですっきりと立った白亜の巨大な風力発電施設20基がシュールな景観を醸し出している。羽根の直径は61メートル、タワーの高さは68メートル。平成18年春から民間事業者が稼働を開始。この北山の風車を間近に体験できるのが「風の里公園」。約4キロメートルの公園内には、「展望ゾーン」「風の広場」「森林浴の森」などが整備されており、天気の良い日には、風車はもちろんのこと、不入山や四国カルスト天狗高原、遠くは石鎚山や室戸岬まで見渡すことができる。



北山の風車



四国カルスト 天狗高原

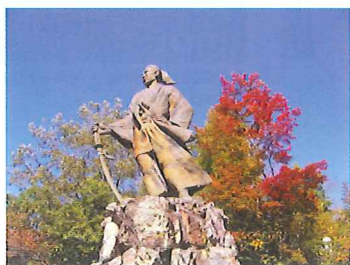
風を感じる町

標高1,000メートル以上の尾根が連なり、緑豊かな草原の中に、まるで羊の群れのようなカレンプ、エルトやドリネといった窪地など、独特の景観を見せる四国カルスト。

その東端に位置する天狗森(標高1,485メートル)の眼下に広がる高原。春は新緑、夏は高山植物、秋はススキや紅葉、冬は雪景色など四季折々の景観が楽しめる。

歴史に会える町

維新のために活躍した志士たちは津野町からも数多く輩出されている。中でも「吉村虎太郎」は2度の脱藩を繰り返し、27歳の若さで戦死した。土佐藩脱藩第1号といわれ、明治維新の魁となった。彼の銅像は、津野町役場西庁舎近くの高台にある。



維新の志士「吉村虎太郎」

【問い合わせ先】

津野町 教育委員会 TEL0889-62-2258

DATA

総人口 6,650人
世帯数 2,764世帯
面積 198.22km²
人口密度 33.55人/km²

